

戦後80年

渋沢栄一と平和

人形を通じた平和への願い

終戦から80年。今、私たちが過ごしている平和で穏やかな日常は、戦争を経験した多くのわたの犠牲の上にあることを忘れてはいけません。平和活動に尽力した栄一翁の功績を振り返り、改めて平和の尊さについて考えてみませんか。

平和活動に取り組んだ晩年

渋沢栄一翁は、古稀（70歳）を機に実業界の多くの役職を退き、以後、福祉・教育などさまざまな社会公共事業に尽力しました。平和活動もその中のひとつです。

第一次世界大戦後、反戦平和運動の高まりの中で、アメリカのウィルソン大統領の提唱により国際連盟（国際連合の前身）が成立すると、栄一翁はこれを世界平和の拠点と位置付け、同志たちと協議して日本に『社団法人 国際連盟協会』を創設し、諸外国の協会と協調して民間からの国際連盟支援運動を推進しました。

晩年には国際平和記念日（第一次世界大戦の休戦記念日）の11月11日に、国際連盟協会会長として、NHKラジオで全国民に向け、平和の訴えを放送しました。この放送は、4年続けて実施され、くしくも昭和6年の国際平和記念日である11月11日に、栄一翁は91歳で逝去しました。

日米親善の象徴『青い目の人形』

栄一翁は、民間外交にも積極的に取り組んでおり、日露戦争明治37（38年）以前から大正期にかけて4回渡米するなど、日米両国のかげ橋となり日米親善に大きく貢献しました。日米親善の取り組みの一つとしてあげられるのが『人形』を通じた交流です。

昭和初期にかけて、日本からの移民を排斥するアメリカの法律制定の動きなどにより、日米関係は次第に悪化していききました。

そんな中、栄一翁に、宣教師として日本に滞在していた親日家のシドニー・ギューリック氏から手紙が届きます。『排日移民法』の阻止に取り組んでいたシドニー・ギューリック氏は、日本には古くから『ひな祭り』や『五月人形』など人形文化が根付いていることに着目し、日本とアメリカの友情の印としてアメリカのこどもたちから、日本のこどもたちへ『親善人形』を贈り、日米の親善と交流を結ぼうと提案しました。

栄一翁は、この提案に応じ、日本国際児童親善会を設立し、日本側の受け入れの代表となりました。そして、同会の会長として、この提案に日本政府が全面的に協力するよう働きかけ、1927（昭和2）年にアメリカから約1万2000体の親善人形が日本に贈られました。

この人形は『青い目の人形』と呼ばれ、多くの日本人に親しまれ、栄一翁は、日米親善の希望を人形に託し、自ら日本各地を回りました。

また、日本からは『答礼人形』と呼ばれる市松人形（58体）がアメリカに贈られ、日本とアメリカの相互親善を図りました。

アメリカから日本に送られた青い目の人形は、その後の太平洋戦争中、敵国に關係するものといわれ多くが失われましたが、人形に罪はないと考えた人たちの手によって、ひそかに守られた人形が全国各地に現存しています。

失われましたが、人形に罪はないと考えた人たちの手によって、ひそかに守られた人形が全国各地に現存しています。

受け継がれる平和への思い

日本各地のこどもたちに『青い目の人形』を贈って日米の關係改善に努めた米国人宣教師シドニー・ギューリック氏の孫であるギューリック3世氏は、その遺志を継ぎ、日本各地を巡り新たに人形を寄贈する活動が続けています。

2016（平成28）年には渋沢栄一記念館に『シャノン』、八基小学校に『スーザン』の



▲平成28年に、ギューリック3世氏から贈られた青い目の人形の『シャノン』（写真左）と『スーザン』（写真右）

【背景写真】日米友好のために日本人形（市松人形）と交換した『青い目の人形』を抱く渋沢栄一（画・渋沢敦雄氏）

市内図書館でも貸し出しています

アニメーション映画『青い目の人形物語』

『青い目の人形物語』は、平成7年度に、戦後50年を記念し、埼玉県平和資料館オリジナル作品として制作された約35分間のアニメーション映画です。

この映画では、越谷市立大沢小学校に現存している人形『ワテラ・ヘズ（マーサ・ヒース）』をモデルに、戦時中、敵国の人形として焼かれたり、壊されたりと悲しい運命をたどったものも多い青い目の人形と、それを守ろうとした人たちの姿を通して、戦争の時代を生きた人々の苦しみや悲しみが描かれています。

青い目の人形を取り巻く当時の状況を知らることができますので、ぜひご覧ください。

この映画を通じて当時の状況を知り、戦争の悲惨さ、そして平和の尊さを感じていただければと思います。

埼玉県県民生活部県民広聴課
企画担当（埼玉県平和資料館駐在）主幹
大屋聡佐さん



▲『青い目の人形物語』のセル画写真の一部（セル画：埼玉県平和資料館所蔵）

埼玉ピースミュージアム 〈埼玉県平和資料館〉

- ところ 埼玉県東松山市岩殿241-113
- 問い合わせ ☎0493-35-4111
- 開館時間 午前9時～午後4時30分（最終入館は午後4時まで）

埼玉県平和資料館は、県民に戦争の悲惨さと平和の尊さを伝えるため、平成5年に開館した県の施設です。館内には、県民と戦争との関わりが理解できる『常設展示』や、戦時中のある1日を疑似体験できるコーナーなどがあり、風化しつつある戦争の体験を次の世代に引き継いでいます。

また、上記で紹介した『青い目の人形物語』を毎日上映しています。入館無料となっていますので、ぜひ夏休みを利用してお出掛けください。

※開館日や行事案内など、詳しくは埼玉県平和資料館ホームページ（右記QRコードからアクセス）をご覧ください。



非核平和推進関連映画DVDを 市内図書館で貸し出しています

市内図書館では、『青い目の人形物語』のほかにも非核平和に関連する映画作品のDVD貸し出しを行っています。平和学習などにぜひご利用ください。

【貸し出し中の作品】※図書館により貸し出し作品が異なります。

- ・男たちの大和
- ・飛べ！ダコタ
- ・硫黄島からの手紙
- ・この世界の片隅に
- ・夕凧の街 桜の国
- ・青い目の人形物語

今年は戦後80年 平和祈念黙とうにご協力ください



8月6日（水）・9日（土）は、広島および長崎に原爆が投下されて80年目の『原爆の日』です。原爆でお亡くなりになられたかたのご冥福と恒久平和の実現を祈念するため、市民の皆さんも原爆投下日時（8月6日（水）午前8時15分・8月9日（土）午前11時2分）の黙とうにご協力をお願いします。